

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490300262		
法人名	医療法人鈴鹿クリニック		
事業所名	グループホーム悠々		
所在地	三重県鈴鹿市伊船町2943番地の4		
自己評価作成日	令和4年11月1日	評価結果市町提出日	令和5年5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2490300262-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	評価認証推進機構株式会社
所在地	510-0947 三重県四日市市八王子町439-1
訪問調査日	令和5年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、『悠々自適』にいつまでも『自分らしく』生活を続けていただくことを願い、地域の皆様に喜んでいただけますよう毎日を楽しく健やかに過ごしたいというお気持ちを大切に、専門のスタッフがきめ細かなサービスを行ない、アットホームな環境のなか優しく丁寧なケアに努めている。
また、協力医療機関として鈴鹿クリニックも隣接しており、より安心してご利用いただける。パーソンセンタードケアの考えを元に、質の良いケアを目指して日々取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム悠々は、鈴鹿市郊外の緑豊かな田園地帯にあり、鈴鹿クリニックを母体とし、緊急時には、隣接するデイや鈴鹿クリニックとの連絡体制がマニュアル化され安心して生活できるグループホームである。コロナ禍の為、家族参加の行事は今は行っていないが、リモートやラインで連絡を取り合っている。重度化や看取りについても、本人や家族の意向に沿うように、職員間で方針を共有し支援に努めている。認知症の本人の視点や立場に立ってその人を理解しながら支援するというパーソンセンタードケアの考えに基づき、紐解きシートを活用し「本人ありき」の介護、支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念に沿ってアットホームな環境で、入居者の方々に自分らしく主体性を持った生活をしていただけるように努めています。	事務所に理念を掲げ、職員は理念の意図を理解し、対応の拠り所としている。紐解きシートを活用し、利用者ありきのパーソンセンタードケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響により、交流はほとんどない。以前は喫茶店に出かけたり、夏・秋祭りや地域の防災訓練に参加の声をかけて頂いている。	自治会に加入し、以前は夏祭りや秋祭り等地域行事に参加したり小学校の運動会に招待されたりと、地域との繋がりがあったが、コロナ禍で自治会も活動を自粛しており、感染症予防の面からも交流は出来ていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当法人が主体的になって具体的な活動を行っていることはない。困ったときの相談窓口として、クリニックと連携はしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響により、開催していない。文面によってホームの現況は必ず報告させていただいている。	コロナ禍以前は自治会、老人会、民生委員、行政、家族会代表者で開催していたが、今は書面にて報告している。利用者家族とは、季節ごとの家族参加のイベント開催時に報告し意見交換をしながらサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月/1回利用者状況等の報告をメール等にて報告。実際足を運ぶことは状況的に減少したが、メールやFax、電話中心に相談や確認を入れている。	月に一度、定期報告をしているが、コロナ禍以降は電話やメールで利用者状況を伝え、相談し助言を貰っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設置しており、身体拘束につながらないように体制を整えている。研修も実施しており常に質の良いケアに努めるよう心掛けている。	身体拘束の適正化委員会を設置し、タブレットを利用して事故報告やヒヤリハットの報告、原因追求等の研修会を行っている。昼間は施錠してない為、職員は、自由に外に出ていく利用者を安全に配慮しながら見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当施設の認知症研修を行い、虐待が起こる事のない取り組みをしている。動画研修を活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	三重県社会福祉士会の研修に今後参加の予定を検討。また、月/1の研修に取り入れていきたいと権利擁護の履修修了者と検討していく予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	代表者、管理者が十分に行っている。希望があれば、事前に契約書をお渡ししている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルスの影響で面会は制限されていることもあり、ご意見等聞く機会は少ない状況である。運営推進会議も同様実施出来ていない。	コロナ禍中は面会も制限が有り、意見を聞く機会が少なかったが、これからは面会も許可され、家族との交流も再開予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者はほぼ毎日顔を出している。毎月のミーティングやケア会議を行い、意見交換の環境を設けている。	毎月のミーティングと年2回の個人面談時の他にも、都度意見を言える雰囲気を作る中で職員の意見や提案を聞き、意見交換を重ねながら運営に反映させている。職員は自己評価表を基に目標を持って積極的に日々努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理念を明確にし、安心して仕事ができるよう努めている。やりがいを持ってもらうため、給与水準も低くせず、研修参加機会を確保し、スキルアップになる情報の提供を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の研修は何とか実施している。施設外の研修はZoom利用を活用している。認知症基礎研修や実践者研修、管理者研修に参加した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	Zoomでの研修等増えてきており、少しずつではあるが、交流の機会は増えてきている。交流のためのZoom等は時間等の都合が合わず、交流はあまりない現状である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	心に潜むニーズ把握に心がけている。特に初期においては様々な視点から消去法のような対応が現状である。その方にとっての良い距離感を確認しながら関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が、入居者(本人)様との関係や気持ち等の受け入れ状態(段階)を会話しながら確認し、言葉に気を付けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階での見極めは難しい。様々なことを試しながら、より正確な情報を収集し、真のニーズに到達できるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方々を認知症である前に、ひとりの人間として見るように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	専門医への受診・訪問診療は家族と施設がともに行動し、共有できるように築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	どなたでも来て下さるように環境を整えている。(ご家族の方から面会制限がある場合、感染症蔓延予防の必要時を除く)なじみのある場所に出かけることもある。	利用者に地域の住人が多い事もあり、隣の病院に来たり、デイに来た時に寄ってくれる人がいたが、コロナ禍以降は面会制限がある為交流が途絶えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関わり合いが維持できるようテーブルの位置を考えたり、役割を考慮して時間スケジュールを考えたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様のご家族に困りごとがあった際、介護保険サービスにつながる対応を行った例は過去に2例ある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントにおいて思いや希望の把握に努めている。パーソンセンタードケアの考えのもと本人本位で対応し、時に紐解きシートを活用している。	パーソンセンタードケアの考えを基に、利用者中心で、本人ありきの支援の実践に努めている。意思疎通の難しい利用者には、表情や家族からの聞き取り、紐解きシート等を活用して本人本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにおいて生活歴や馴染み生活、環境の把握に努めている。パーソンセンタードケアの考えのもと本人本位で対応し、時に紐解きシートを活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	モニタリングや再アセスメントにおいて過ごし方、心身の状態等の把握に努めている。パーソンセンタードケアの考えのもと本人本位で対応し、時に紐解きシートを活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ひとり3ヶ月に1回はケアカンファレンスを実施している。随時意見が言えるように申し送り簿も活用し、意見交換を行っている。	3ヶ月に1度のカンファレンスを行い、職員から見た本人の目標を、ケア状況や課題から、家族の意向も含め設定し、計画を立てている。計画書は家族に送り承諾を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の24時間シートを使用。月1回それぞれミーティングやカンファレンスで全体の意見交換を行っている。・日々申し送りも実施。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診時の送迎、入居時の車両の迎えも行っている。散髪サービスや希望があれば訪問マッサージや外来のリハビリも対応。可能な限り個人のニーズに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は移動スーパーも利用している。今後は買い出しに行くと共に来ていただくも考えた活用を検討していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣に主治医のクリニックがあり、月2回の訪問診療、必要時の受診を早くに行っている。専門医院の受診もフォローしている。	隣接する主治医に月に2度の訪問診療を受けている。専門外の受診は原則家族に付き添いをお願いしているが、職員も同行している。希望者には2回目からは職員が対応し、家族と連絡を取り合いながら支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	浣腸や点滴、血液検査や褥瘡処置等を依頼をしたり、情報の共有を密に行うことで適切な受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	救急や入院の際、主治医からの紹介状や情報提供書を提供。施設は心身の状態や服薬情報等の提供。退院時の調整はそれぞれが連携し、早期に実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設の指針は、契約時に説明をさせて頂いている。早い段階ではあるが、ご家族とは意向確認を実施。主治医との調整もさせて頂いている。	入所時に看取り方針を提示し、説明している。本人と家族に主治医を交えて終末期のあり方についての計画を立てている。終末期には、都度家族の意向を確認し、主治医との意見調整を行い、職員含めチームで支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡のマニュアルやチャート式の連絡法など活用し、体制を整えている。応急処置などは救急法の研修を進めていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の実施(夜間を想定したり、ひとり対応を想定)、グループLINEを活用している。	夜間一人対応想定等を含む避難訓練を実施している。夜間の災害時には、向いの病院と連携し、職員へのラインによる避難応援要請体制を整えている。昼間は隣接するデイや薬局と連携する等の協力体制が取れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりの人として普通に接するよう意識することを心掛けている。さらに本人を否定する言葉、不安を抱いてしまう言葉・態度などを気を付けるように意識している。	利用者の誇りやプライドを傷つけないように、真摯に向き合い本人を否定する言葉、態度に気を付けている。特に職員の無意識に発する言葉や態度に関して検証の必要性を感じている。	職員が無意識に発する「人格を否定する言葉や誇りやプライバシーを損ねかねない、また利用者が不安を抱いてしまう言葉や態度」に関して意識づけができるような学習の機会や相互に指摘できる環境の整備も望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	指示語が少しでも減らし、個々の状況に応じて自己決定して頂いている。例えば「どうしましょう」を多めに使うなどしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居心地の悪さを感じない程度の起床、就寝、食事、入浴はスケジュールに沿って入居者の方にはお願いしている。時間をかけながら徐々に柔軟な体制を整えたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	同じような服に片寄らないように気を配っている。女性は顔には化粧水、紙にはコンティンショナーなど使用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理済みでの食事提供であることから、たまに料理していただく程度。配膳・下膳や食器洗い、お盆を拭いてお願いしている。誕生日は好物をみんなで食べたり楽しんでいきます。	食事は外注でメニューは決まっているが、アレルギーや嫌いな物など対応しており、食事形態も利用者の状況に合わせている。誕生日やイベント時にはケーキやおやつをみんなで食べて楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養はバランスの良い提供を中心に、咀嚼・嚥下や嗜好に合わせて対応している。ソフト食も積極的に取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯を着けられない方はうがい、義歯の方は衛生管理を行っている。口腔内の状態を歯科医師にチェックしていただいたこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間シートを活用し、アセスメントを行い情報を整理し、誘導や声掛けを行っている。座位姿勢や離床時間確保にも気を付けている。	排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりのパターンに合わせてトイレ誘導や声掛けを行なっている。排泄時も全介助はなるべく行わず、自力での排泄が続けられるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘のデメリットを理解した上で、服薬なのか服薬であれば何が合うかを確認・実践。服薬以外であれば牛乳や運動、生活リズム等、アセスメントや実践を個々に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴はある程度曜日と時間帯は決めさせていただいているが、順番や湯加減を希望に沿って実施している。ニーズなどで入浴変更など柔軟に対応をしている。	脱衣室や浴室は広く、椅子リフトも設置している。入浴日や時間は施設で決まっているが、週に2回の入浴は一人ずつ湯を入れ替え、好みの湯加減でゆっくり入って貰えるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない程度の休息は、希望や心身の状態などに応じて提供させていたが、入眠前の個々へのアプローチにも気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、薬剤師と連携している。薬剤情報は個人ファイルに最新のものを綴っている。いつでも確認できるようにしている。お薬手帳も整理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	近い昔にしていたことや個々人出来ることはしていただいている。役割に関しては、日常生活上の作業を中心に共に取り組むスタイルを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	以前は自宅近くや大型スーパー、季節を感じる外出等を実施していたが、新型コロナウイルスの影響により未実施か限定的な内容での実施に留まっている。(下車しない等)	コロナ禍以前のように外出出来ていないが、車を使い花見等に出かけている。職員不足でもあり全員揃っての外出はできないが、交代でドライブに行くなど工夫して外出支援に取り組んでいる。家族との外出は出来るようになってきた。	多目的ホールを囲む回廊を使って、歩行訓練を行なっているが、外の空気に触れることが少ないため、近所や中庭に出て散歩や外気浴を楽しめるような支援も期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設が預かっている。外食や買い物、喫茶などに行く際・週1回のパン販売時に、預かっている小口現金を利用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望される入居者やご家族が現在お見えにならない現状である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーに日めくりカレンダーを設置。温度は適温を心がけている。廊下フロアーは簡素にし、清潔感を意識している。明るすぎない照明を使用。季節によって飾りつけを行うようにしているが、施設感を出さないよう気を付けている。	台所と続き部屋である居間は東の窓から朝日が差し込み、職員の食事の準備を手伝ったり、洗濯物を畳んだり、テレビを見たりと好きなことをして過ごしている。椅子の生活に馴染めない利用者の為に置き畳のスペースを作りくつろいで貰っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う同士、決まった風景でないと不安が募るなど席位置には気を配っている。昼夜逆転にならない程度のお部屋での休養などひとりの時間も自身の意思決定をさせていただくよう意識している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みのものを持ってきていただくことで生き生きとした生活になる一つの要素になると職員に周知している。	部屋にはエアコン、ベッド、クローゼットが備えてあり、利用者は自由に馴染みの物を持ち込み、過ごしている。個室はあくまでもプライベートゾーンであり、居心地よく過ごして貰う為に職員はむやみに立ち入らないよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリー、廊下には手すり設置。車いす自走ができる広さがある。居室は、必要に応じてT字パーやトイレを設置している。		